

学校図書館活用のススメ part 2 ～行きたくなる図書館づくり& ビブリオバトルの実践～

学校教育課通信

令和3年 12月17日 第172号
編集・発行：県南教育事務所 鈴木正和

季節はあっという間に冬になりました。寒い冬でも「家や学校にいても楽しめること」の1つとして「読書」があります。前回の学校教育課通信では、図書館活用を図った授業づくりについて記載しましたが、今回は、子どもたちが思わず足を運びたくなるような、図書館づくりを行っている学校について紹介します。

棚倉町立棚倉中学校の実践



学校には、至る所に「本紹介」のブースがあります。また、2階生徒昇降口付近の全校生徒が毎朝通る階段前には、「そうだ。図書室に行こう」の掲示。まさに学校図書室へと誘われるシチュエーションが準備されています。階段を上って3階へ。階段を上るとすぐの場所に「図書室」があります。そこはまさに「行きたくなる図書室」です。棚倉中学校で行っている取組の一部を紹介します。



《新聞の読み比べ》



NIEと提携し、学校には毎日2社の新聞が各学級分+学校分で送付されてきます。各班で「今週のイチ推し」記事を2社分挙げ、文章や見出しの共通点や相違点を見だし、違う色でラインを引き、内容に対する感想を短くまとめています。同じ記事の見出しの付け方や内容の報じられ方などを比べる学習を通して、情報の信憑性について考えたり、筆者の意図を読み取ったりすることができます。



《季節に応じた本紹介コーナーの設置》



それぞれの月ごとに「〇〇特集」と題して、それにちなんだ本を紹介しています。その特集の一例には、「東日本大震災」や「映像化作品原作本」、「卒業」など生徒の興味関心に応じたものや福島県として風化させてはならない震災関連など多岐にわたっています。「今月はどんな本が紹介されているのかな？」と月が変わる度に思わず図書館に足を踏み入れたくなるのではないのでしょうか。また、本の紹介文も図書委員会の生徒が作成しています。どうしたら多くの人に本を手にとってもらえるかを考え、生徒自身が工夫した紹介カードを作成することは、自主的な生徒会活動の取組にもつながっているようです。



《その他》



生徒が興味関心の高い「スポーツ」などのコーナーを入口付近に設置。新刊や人気本は入り口付近の机の上に配置して手に取りやすく！！



リクエストボックスを図書館前に設置。生徒からリクエストをもらい、「図書委員会からの回答」としてリクエストに対する回答が見える化！！



GIGAスクール構想の実現により、調べ学習でも図書館や本の活用が減少しています。その中でも興味のある本を手に取り、自分の手でページをめくり想像の世界を広げる楽しさを味わったり、正しい情報の選択の仕方について学んだりするために、図書館を活用してはいいかがでしょうか。先生方の働きかけが子どもたちの本への足がかりとなっていくはずですよ！

ビブリオバトル（書評合戦）のススメ

今年度もたくさんの小・中学校、及び高校でビブリオバトルが行われています。ビブリオバトルとは、自分のおすすめの本を5分間で聴衆にプレゼンし、その後質疑応答を行った上で「最も読みたい本」を聴衆が投票で決める書評合戦です。その取組を一部紹介します。

高校生よる「ビブリオバトル中通り大会」

10月9日（土）に新白信ビルにおいて高校生の「ビブリオバトル中通り予選会」が行われました。県南域内からは、白河高校、白河旭高校、白河実業高校の3校から4名参加し、その中で1名が県大会本戦への出場切符を手に入れました。高校生の発表はどれも素晴らしいものでした。特に驚いたのが予選会と決勝戦の発表の内容の違いです。予選会での聴衆の反応などを感じ取り、決勝戦では内容も表現の仕方も変えている生徒が多くいました。ただ「暗記した原稿を発表する」のではなく、聞き手を意識してどう伝えたら自分の思いが伝わるかを考え、表現する力がしっかりと育成されていることを感じました。小・中学生にはここまでできないかもしれませんが、その基盤となる相手意識や目的意識をもった話の仕方などは身に付けさせたい資質・能力の一つではないでしょうか。また、県大会は、11月20日（土）「とうほう・みんなの文化センター」で開催されました。同日、中学生の部の予選及び決勝戦が行われ、白河第二中学校と表郷中学校の2校から2人の中学生が出場し、素晴らしい発表を行いました。今後もビブリオバトルは継続される予定です。中学生及び高校生の積極的な出場をお願いします。



中学生による小学生への本紹介



表郷小学校では、全校集会で表郷中学校の生徒2名による本紹介が行われました。来校した2名は、自校で開催されたビブリオバトルで「チャンプ本」と「準チャンプ本」に選ばれた2名です。2名の生徒は、身ぶり手ぶりを付けながら話したり、「最近、みなさんは幸せですか？幸せな人は、手を挙げて～」と挙手を呼びかけたり、小学生にとってもわかりやすい表現で発表を行っていました。

発表を聞いている小学生は、「え～」とびっくりしたり、「恋」というワードに笑顔になったり、全員が真剣に楽しみながら話を聞いていました。発表後に行われる質問コーナーでは、競うように手を挙げて質問するなどさらに話を聞きたいという気持ちの高まりが感じられました。最後に小学生を代表して2名の児童から「紹介してもらった本を是非読みたいと思いました。」「長い本をこんなに短い時間でわかりやすく説明していただいて、ありがとうございます。」などの感想発表がありました。

小学生にとっても馴染みのある先輩の素晴らしい発表を聞くこと、また、中学生にとっては小学1年生にも興味をもたせ、わかりやすい言葉で伝えることができ、どちらにとってもかけがえのない体験となったようです。



「全国学力・学習状況調査」の質問紙に「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」という項目があります。その項目に対して「全くしない」と回答した児童・生徒が平成31年度と比べ、増加傾向【小：23.9%（5.3%↑）中：37.3（2.6%↑）】にあります。語彙力の向上が課題となっている今、本を手にとってページをめくる楽しさや新たな知識、感動を味わう喜びを感じてほしいと思います。

